

【投信調査コラム】

日本版ISAの道 その157

NIPPON
INDIVIDUAL
SAVINGS
ACCOUNT

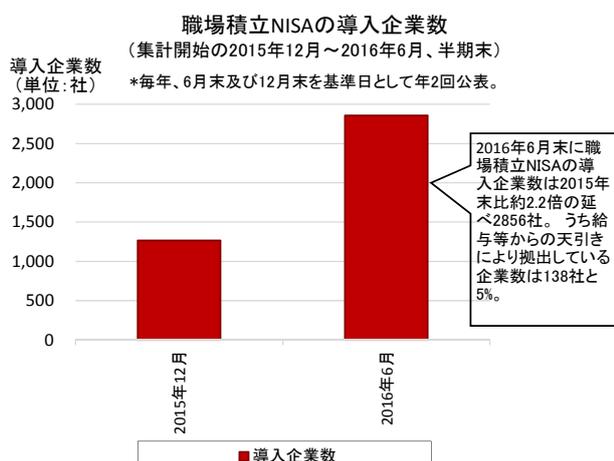
金融レポートで整備推進が有効と言われる職場積立NISAが1億円超え!~8月の既存投資家とネット証券の人気はREIT、NISA向けファンドの人気はアロケーション(バランス型)、積立は日本株など~

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

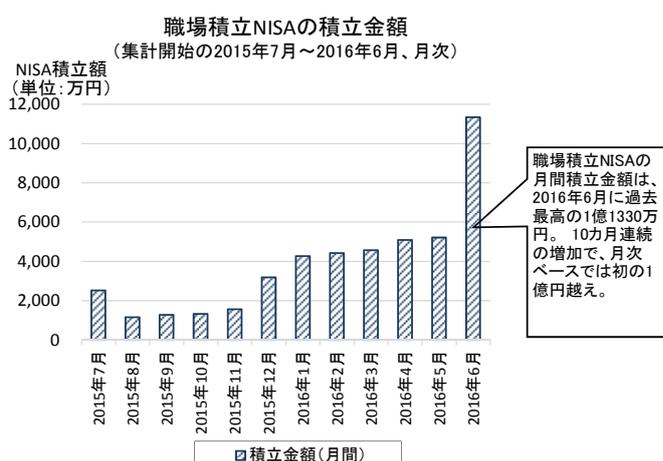
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

金融レポートで整備推進が有効と言われる職場積立のNISAが1億円超え!

2016年9月9日に日本証券業協会が公表した職場積立NISAの導入状況等(半期毎に公表)によると、職場積立NISAの導入企業数は2016年6月末に2856社と2015年末の1268社から2.2倍に増加、月間積立金額は、最新2016年6月に1億1330万円と初の1億円超えで、統計開始以来、単月で過去最高となった(URLは後述[参考ホームページ])。導入企業数は前年2015年9月23日時点で180社前後だったので大きく増えた事となる(導入予定も含む~2015年9月24日付日本経済新聞~URLは後述[参考ホームページ])。また、積立金額も2015年9月から10カ月連続の増加で、最新6月の1億1330万円という金額は、前年下半期(2015年7月~12月)の積立金額の合計1億998万円を単月で上回る規模であり、足元で急増中である。



(出所: NISA推進・連絡協議会、三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)



(出所: NISA推進・連絡協議会より三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

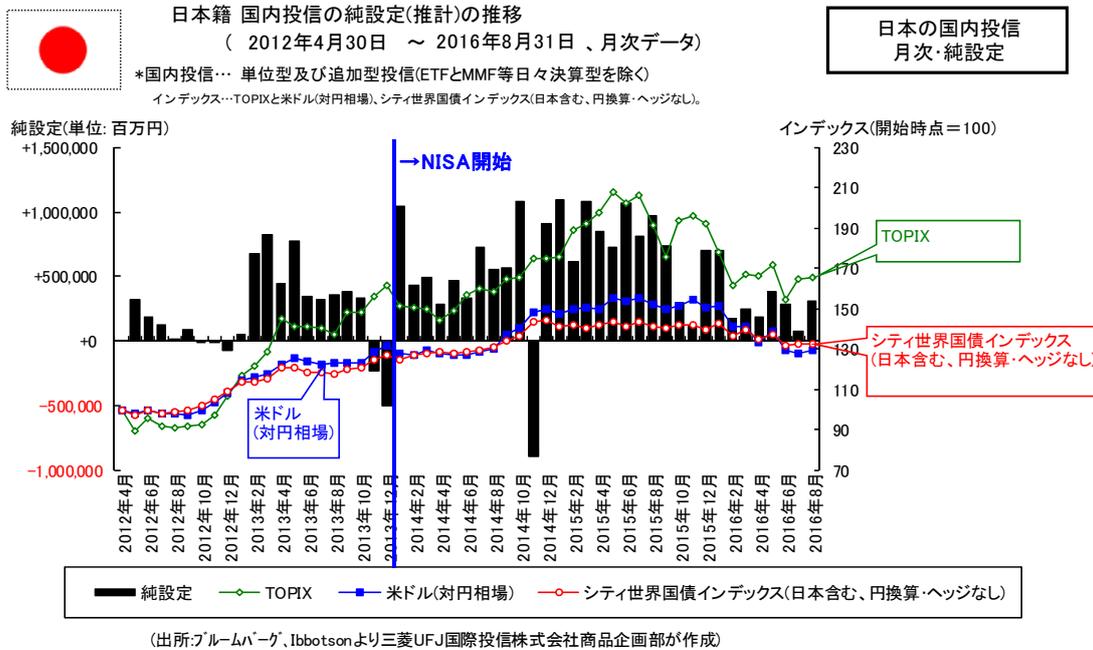
2016年9月15日に金融庁より公表された「平成27事務年度金融レポート」でも、「投資教育の重要性が改めて確認できるものの、投資教育を受けたことのない者が約7割を占めており、そのうち約3分の2が、『金融や投資知識を身に付けたいと思わない』とも回答している。このため、本人が行動を起さなくとも投資教育を受けることができる外部的な環境(例えば職場積立NISAや確定拠出年金等)の整備を推進していくことが有効と考えられる。」と言われているものである(p.56~URLは後述[参考ホームページ])。

職場積立NISA以外を含むNISAの全ての積立設定件数は90万6316件(2015年末)、NISA総開設口座数約987万件に占める割合は9.2%と、まだ1割弱だが、前年(2014年末)の6.6%から上昇している。また、積立設定件数90万6316件も、前年末と比べ増加率は65.4%となっている。窓販金融機関における積立(定時定額購入契約)口座数が2016年6月末に83万1698口座と、1年間で27.9%の増加率(2016年9月12日付ニッキン投信情報~URLは後述[参考ホームページ])だったので、NISAでの積立口座の伸びが大きい様である。

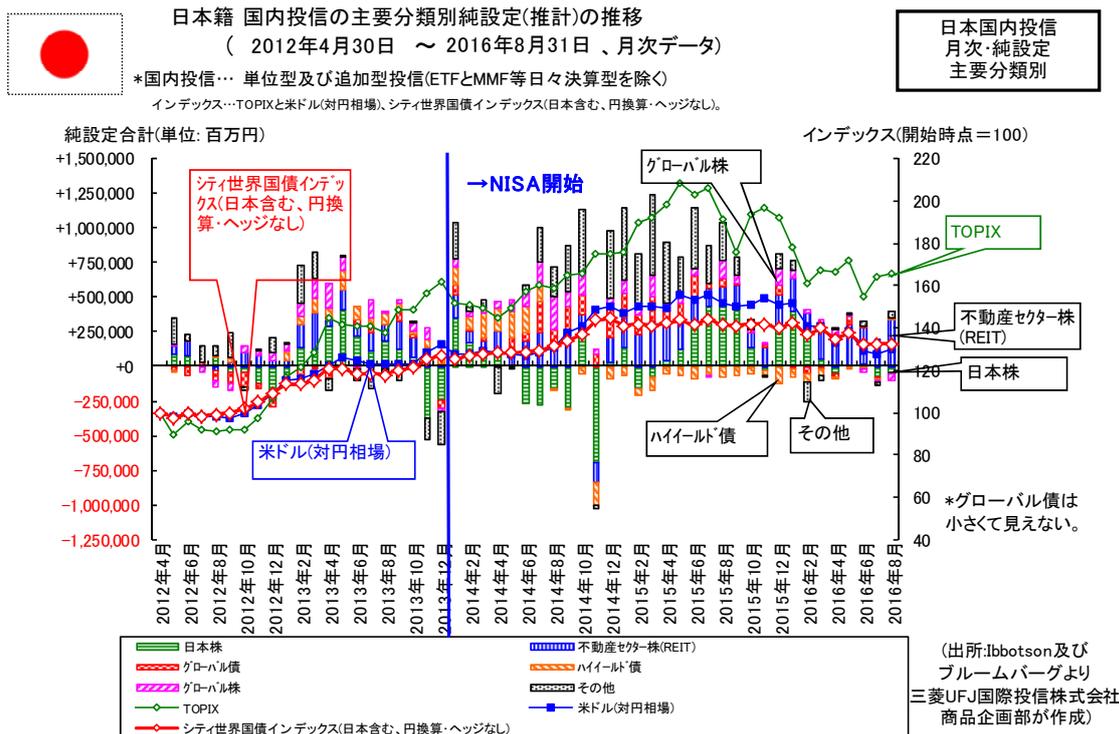
金融庁の平成29年度税制改正要望では新しく「積立NISA」創設が盛り込まれ、これは現行NISA以上に、現役世代を中心に、少額から積立・長期・分散投資を後押しする制度設計になっている(2016年8月31日付金融庁平成29年度税制改正要望及び2016年9月5日付日本版ISAの道 その155参照~URLは後述[参考ホームページ])。より一層の普及を期待したいものである。

既存投資家の REIT 人気は継続

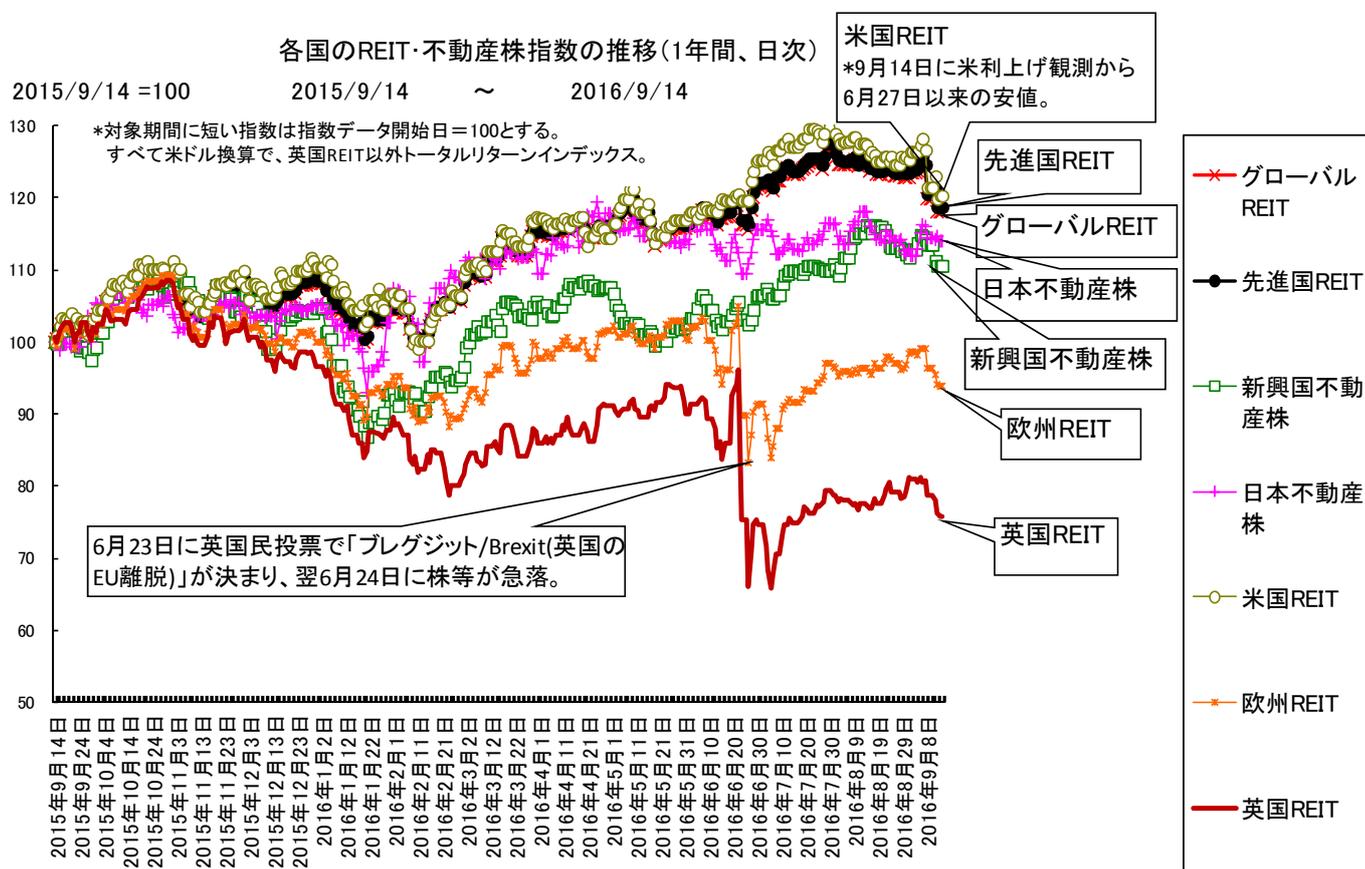
ここで、今後より一層の拡大と普及へ期待のかかる NISA の最新動向を見る。8月だが、NISA の投資動向にどのような変化があっただろうか？ 投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替し、投資の未経験者層(新規投資家)は NISA 向けファンド(後述※参照)で代替して見る。まず既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)だが、2016年8月は+3087億円と、2014年11月以来1年10カ月ぶりの低水準となった前月7月の+714億円から増加、6月と同等の資金純流入となった。



投資対象(主要分類)別で見る。2016年8月に最も純設定の大きかったのは、前月に引き続き不動産セクター株(REIT)で、次いでアセットアロケーション慎重型、アジア株(除く日本)、インド株だった(次頁グラフ参照 *主要分類…モーニングスター分類で2015年12月末の純資産の大きい上位5分類)。



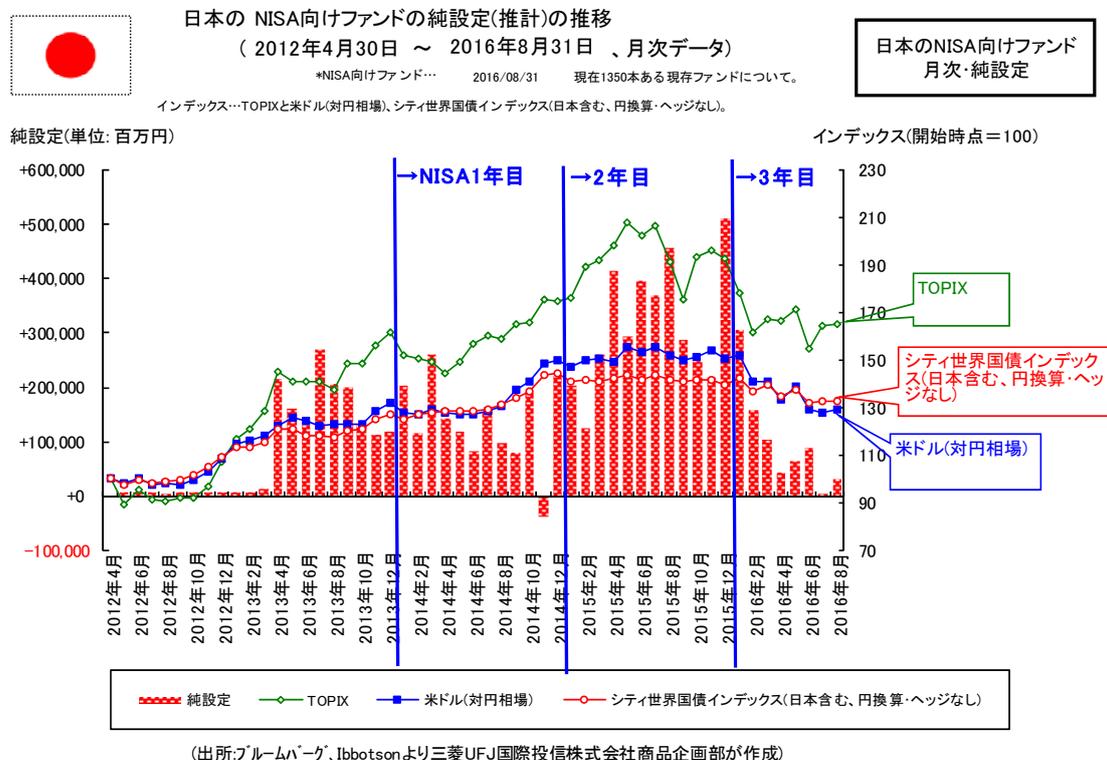
不動産セクター株(REIT)は8月の純設定額が+3460億円と、21カ月連続の資金純流入となっており、純設定額1位は2016年4月から5カ月連続だ。不動産セクター株(REIT)には、昨年2015年(1~12月)に2.3兆円が純流入したが、2016年は投信全体が低調のなか、1~8月に約2兆円の純流入となっており、年内に3兆円を超える可能性もでてきた。『投資家は利回り確保を狙い、数少ない高利回り商品に資金を振り向ける動きを強めている。株式市場では配当利回りや流動性が高い食品株、医薬品株などを「ニューソブリン(新たな国債)銘柄」として物色する動きがある。平均配当利回りが4%近い不動産投資信託(REIT)も人気が高い。』(2016年9月1日付日本経済新聞~URLは後述[参考ホームページ])と報じられているように、年始から大きな純流入が続くREITファンド、特に米国REITに投資するファンド人気は8月にかけて継続中だ(詳細は2016年8月8日付日本版ISAその152参照~URLは後述[参考ホームページ])。ただ、米利上げ観測からこれまで堅調に推移した米REIT相場が足元、急反落しており、今後、米国REITファンドにも影響が及ぶ可能性はある。米国REIT指数は9月14日にかけて、今年8月1日のピークから-8%となり、6月27日以来の水準へ落ち込んでいる。



一方、日本株は8月に-520億円と、7月の-744億円から減ったものの、2カ月連続の純流出となった。ただ、2016年(1~8月)は+5385億円となっている。2014年(1~12月)に-6000億円強の純流出だったものの、2015年(1~12月)に+2.2兆円弱の純流入(全31分類中2位)となり、その後の2016年も初めは好調な純流入だった。

NISA 向けファンドの人気はアセットアロケーション柔軟型やグローバル債など

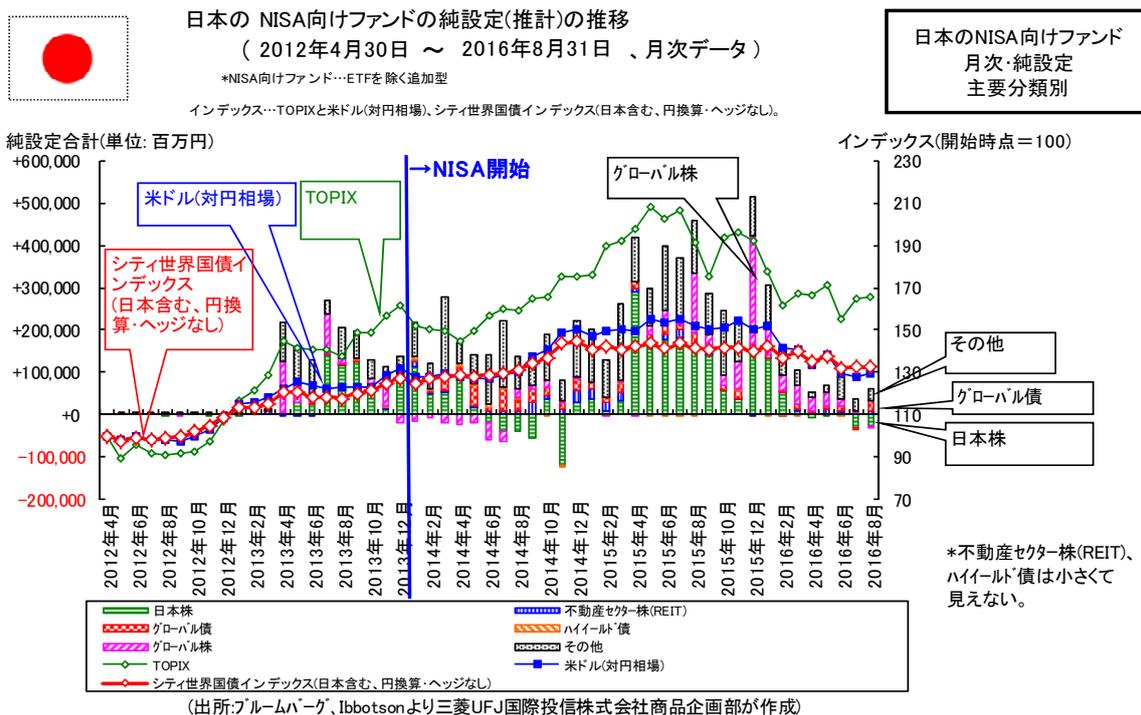
次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。 下記グラフの通り、最新 2016 年 8 月は+289 億円と前月 7 月の+25 億円を上回ったものの 2016 年ではこの 7 月に次いで 2 番目の小ささである。



※「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2016 年 8 月 31 日時点で 1350 本となった。

この新規投資家と思われる投信の 2016 年 8 月純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。 前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いると、8 月の純流入 1 位はアセットアロケーション柔軟型(7 月 4 位)、2 位はグローバル債(同 26 位)、3 位はその他株(同 3 位)、4 位はマルチオルタナティブ(同 1 位)、5 位は不動産セクター株(REIT) (同 8 位)となっている(アセットアロケーション及びその他株、マルチオルタナティブは次頁グラフで「その他」に含まれる)。

2016 年 1 月頃まで全体の純設定の半分を占めた日本株は、8 月は-271 億円と、2 カ月連続の純流出となった。



ネット証券での人気は REIT・グローバル株・日本株、積立は日本株

最後に、各証券会社の集計結果も見る。2016年9月16日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新 NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA 口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新 2016年8月の NISA 口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・3・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位はグローバル株ファンド、4位は日本株ファンドとなっている(2位はインデックスファンド)。前月7月は、1・3位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、4・5位は不動産セクター(REIT)ファンドだった(1・2位はインデックスファンド)。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週9月5日から9月9日までは、1・2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・4位は日本株ファンド、5位はグローバル株ファンドとなっている(3・5位はインデックスファンド)。参考まで、一ヶ月程前の7月19日から7月22日までは、1~3位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。

○最大手である SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週9月5日から9月9日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・3・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位はグローバル株ファンド、5位は日本株ファンド(2位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の7月25日から7月29日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1位はグローバル株ファンド、2・4位は日本株ファンド、3位はアセットアロケーションファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンド(1・2位はインデックスファンド)だった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、9月5日から9月9日までのNISA投資信託・買付金額の1・3位は不動産セクター株(REIT)ファンド、2位はグローバル株ファンド、4・5位は日本株ファンド(2・4位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の7月25日から7月29日までのNISA投資信託・買付金額の1位はグローバル株ファンド、2・5位は不動産セクター株(REIT)ファンド、3・4位は日本株ファンド(1・3位はインデックスファンド)だった。

<ジュニア NISA 投資信託>

○SBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週9月5日から9月9日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1・4位は不動産セクター株(REIT)ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、5位は日本債ファンド。一ヶ月程前の7月25日から7月29日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、3・4位は不動産セクター株(REIT)ファンド、5位は日本債ファンドだった。

<NISA 積立～2016年9月16日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2016年8月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1・2位は日本株ファンド、3・4位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(*前月と順位は同じ。1・3・4位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、最新週9月5日から9月9日までのNISA口座では、1位はグローバル株ファンド、2・3位は日本株ファンド、4位は日本債ファンド、5位は不動産セクター株(REIT)ファンドとなっている(*1・3・4位はインデックスファンド)。

ネット証券では、8月は不動産セクター株(REIT)を筆頭に、グローバル株、日本株の人气が継続、金融庁の税制改正要望で今回盛り込まれた「積立NISA」に関連して積立では、日本株人气が見られた。

以上、8月にNISAで投資された先を、既存投資家、新規投資家、ネット証券などの順で見てきた。既存投資家とネット証券の人气はREIT、NISA向けファンドや既存投資家ではアロケーションファンドも人気だった。ネット証券の積立では日本株が人気だった。もちろん、今後を示すものではないが、こうした情報が個人投資家の参考になれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

2016年9月9日付日本証券業協会公表の「職場積立NISAの導入状況等について」(平成28年6月末)…
「http://www.jsda.or.jp/sonaeru/oshirase/files/syokuba_nisa160906.pdf」(2016年3月16日付NISA推進・連絡協議会公表「職場積立NISAの導入状況等について(平成27年7月～12月)」…

「http://www.jsda.or.jp/sonaeru/oshirase/files/syokuba_nisa160316.pdf」)、

2015年9月24日付日本経済新聞朝刊「職場NISA広がる、180社が導入、天引き積み立て、教育講座も、現役世代の投資促す。」…「http://www.nikkei.com/article/DGKKASGD18H9N_T20C15A9MM8000/」、

2016年9月15日付金融庁公表「平成27事務年度金融レポート」…
「<http://www.fsa.go.jp/news/28/20160915-4.html>」
2016年9月12日付ニッキン投信情報…「<http://www.nikken.co.jp/toushin/>」
2016年8月31日付金融庁公表「金融庁の平成29年度税制改正要望について」…
「<http://www.fsa.go.jp/news/28/sonota/20160831-3.html>」
2016年9月5日付日本版ISAの道 その155「税制改正要望で「積立NISA」創設やNISA恒久化等!～「積立NISA」の20年にわたる検証とバランス型ファンド・非毎月分配型ファンドの純資産・純設定推移～」…
「http://www.am.mufg.jp/text/oshirase_160905.pdf」
2016年9月1日付日本経済新聞「ハイイールド債投信2年ぶり資金流入超 8月個人の「利回り渴望症」に懸念も」…
「http://www.nikkei.com/article/DGXLASFL01HF5_R00C16A9000000/」
2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」
SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」
楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」
マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…
「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。